

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 わくわく広場あさぎり		
○保護者評価実施期間	2025年 7月1 日		～ 2025年 10月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 7月 1日		～ 2025年 10月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳トレーニングの種類が豊富である。	自己決定を大事にしている。	保護者の方や、学校・園などと連携を図り、より一層情報共有の精度を高めていく。
2	食育や、外出イベントなど様々なことにチャレンジし経験値を上げる。集団での活動を大事にしている。	決められたルールの中で、児童が楽しんで 自分から発信できるような、雰囲気作りを大切にしている。	集団活動や、脳トレーニングにあまり、興味のない児童にも、もっと興味を抱けるようにアプローチを欠かさず行っていく。
3	広々としたスペースを確保している為、児童が多くても十分に過ごせるスペースが、個々の療育にも力を入れやすい環境にある。	集団で楽しめる遊びを必ず取り入れ、 集団生活の中でも 過ごせるような取組みを行っている。	主体的に行動できるように、 促している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の施設の関りが無い。	地域施設との関りが難しい。	継続して地域福祉などの関りを強化し、地域と絡み、 地域に根付いていく。
2	家族会などの開催が少なく、関わりを持てる環境に乏しい。	交流会をする機会を設けるのが 難しい。	保護者がいつでも、面談や、見学が出来るように 提案していく。
3	平日は、放課後デイサービスとの兼ね合いもあり、集団活動に参加しにくい児童もいる。	平日は 放課後デイサービスとの兼ね合いもあり、集団活動が間に合わない際もある。	危険のないよう、未就学児でも参加できる、集団活動に力を入れる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・わくわく広場あさぎ

公表日 2025年 10月 22日

利用児童数 20

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%				スペースが広い。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	80%				20%	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	60%			40%		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	80%	20%				
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	40%	30%		30%		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	40%			50%		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	90%			10%		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	80%			20%		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	30%		70%	20%		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	80%	20%				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			100%			
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	80%			20%		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	50%	50%				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				100%		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	80%	20%			してくれる人と、してくれない先生がいます。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	80%	20%				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	80%			20%		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	40%	60%				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	50%			50%		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	50%		10%	40%		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	60%			40%		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 わくわく広場あさぎり		公表日 2025 年 10月 22日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		広いスペースが確保されており、個別プログラムや集団プログラムも 同時に出来るようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		パートさんも含め、職員が定着しはじめているので、シフトが組みやすくなり 児童が多い時にも人数は確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		元々、段差はないが 段差をつけないようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		毎日、清掃点検をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		子ども達の気持ちが高ぶった時に、クールダウンをする場所を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		毎日、職員でミーティングを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		急な要件の場合 はLINEで保護者からのご意見をいただき改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		毎日、業務内容についての職員ミーティングを実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		代表が管理者が、定期的に外部との相談の機会を設けている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		研修計画をたて、毎月職員研修を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		保護者からのアセスメントシートと職員のモニタリングを基に作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		児童発達支援管理責任者が他の職員との意見交換をしながら、作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		児童のベースに合わせ、支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		チームプレーを心掛けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		食育・遠足・学習等、他分野に涉る活動プログラムを工夫し実施している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		子どものそれぞれの特性に応じて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		朝のミーティングで打ち合わせを行っている。食育・遠足に関しては、事前にプログラムの流れについて印刷物を渡している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		子ども達を送った後は、必ず振り返りを行い話し合いの場を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		毎日、必ず支援改善につなげられるように記録をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		日々、観察し 支援計画に沿って進めている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		医療機関・園とも連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	50%	50%		各園や個人によってケースが違うので、共有できない場合もある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	50%	50%		今回は、就学する児童がいなかったが、今年度には、情報共有に努める。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	50%	50%		アドバイスを取り入れ、連携を図れるよう努める。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		100%		地域密着につとめていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			毎日の送りの際にはフィードバックをしている。緊急の場合は、即時LINEや電話で連絡を取っている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	35%	65%		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			各家庭に必ず説明している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			見学・体験等を通して、確認する機会を設けている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	65%	35%		必要な際には、行っている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		今までそのような機会がなかったため、今後参観してもらい機会を検討している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		迅速に対応している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		定期的に発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		十分留意している。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		十分留意している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		図ろうとはしているが、まだ、実現できていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	50%	50%	全員がそろって来所することがないので、今後個別に分けてプログラムに組み込もうという計画を立てている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	50%	50%	全員がそろって来所することがないので、今後個別に分けてプログラムに組み込もうという計画を立てている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		入所前の聞き取り内容について、職員全員が把握する機会を設けている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		アレルギーの児童が出れば、対応する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			